F 8

技術・家庭科の履修形態による生徒の意識

高知大教育　菊地るみ子

目　的　現在の技術・家庭科は，学校によって選択される領域が異なる。学習形態も男女共学あり，別学ありとさまざまである。このように異なった履修形態が，生徒の技能や意識にどのような影響を与えているかということを，生徒の側から明らかにしたい。

方　法　大阪府枚方市の公立中学校3校（男女共学2校，一部共学1校），高知市内の公立校1校（男女別学），私立校1校（一部共学）を選び出し，3年生を対象としたアンケート調査を，各学校毎に実施した。調査期間は，1986年10月下旬である。その結果，有効回答を全部で829票を得た。

結　果　(1)　技術・家庭科の男女共学についての意見では，全体的に賛成派が多いものの，別学や一部共学では反対派がふえ，自分の学習形態を肯定する見方が表われている。

(2)　男女一緒に学習することをよいと思う理由は，「男女を区別する必要がない」という強い平等意識が共学校では多いが，別学校では無回答がふえ，体験していないことはわからないと思われる。

(3)　生徒の男女観や家庭観には性差が顕しく，学習形態とは関連が認められなかった。

(4)　技術・家庭科の教科観は，履修した教材や指導観によって受け取り方が異なる傾向が見られたが，共学校では多様な受け取り方がされているのに比べ，別学では物を作る教科，物のしくみを学ぶ教科といった一面的受け取りが多く見られる。

(5)　生徒の技能は，設定した項目によって差があり，学習しなければできないもの，学習してもできないもの，学ばなくてもできるものが見られた。